

**鈴鹿の風** **明石 孝利 議員**

**療育センターのあり方について**

(質問) 昨年5月、文部科学省の調査で、発達障害児が11人に9万人を超え、小中学校で発達障害と思われる児童生徒は6.5%、特に小学1年生では約10人に1人という調査結果が出ている。そのような中、発達障害は早期発見、早期支援が重要であり、行政としてその責務が問われている。その核となる鈴鹿市療育センターと民間の療育施設との併用が今後重要であると考えているが、現状ではその併用が困難である。これは発達障害者支援法においても、コンプライアンス上問題があり、市療育センターと民間療育施設との併用など、連携強化を図るべきではないか。

(答弁) 市の療育センターと民間の療育施設との併用は、療育上必要であれば問題はなく、連携強化を図っていくよう、協議を重ねる。

その他の質問 ○企業版ふるさと納税への取り組み

○市出資法人への会計操作について

**公明党** **船間 涼子 議員**

**発達に課題のある子どもの支援について**

(質問) 発達に課題のある子どもの保護者が、子育てに大きな不安感や負担感を抱かないように総合的な支援を進めることが重要と考え、本市の発達への課題に関する相談件数と一貫した支援について尋ねる。

たり、取り巻く環境が変わった場合の接し方や、発達に課題があっても優れた能力が発揮できるよう出生時から保育園(所)・幼稚園、学校での子どもの様子や具体的な支援を「すずかっ子ファイル」に基づき、一人一人のニーズに合わせた支援を行う。4、5歳ごろに集団適応健診を行うことにより、早期発見とともに当該児童を核として関係機関の支援のネットワークを作ることができ、適切な途切れのない一貫した支援が可能となる。

その他の質問 ○交通安全・防犯対策について

(答弁) 昨年の相談件数は5,262件で実人数が約660人と推計。多くの子どもや保護者が課題や不安を抱えている状況にある。子どもの支援に当

**自由民主党  
鈴鹿市議団** **矢野 仁志 議員**

**学校施設の条例について**

(質問) 老朽化が著しい大木中学校の建て替えについて、どうすれば進捗させることができるか。学校の老朽化を理由に建て替えや改修などを定期的に考えるのであれば、それを実行させるための条例を作ればよいのか。

がら市全体の予算を調製した上で、議会の議決をお願いしているので御理解いただきたい。学校施設の整備については、学校規模適正化基礎調査結果をもとに策定する基本方針などを踏まえた上で、公共施設等総合管理計画の考え方も十分に考慮し、地理的要因や防災面での視点も加味するなど、総合的な視点で検討する。

その他の質問 ○市長部局による教育委員会の支援体制

○鈴鹿市のコンプライアンスの対策

○皇學館大学を含めた高等教育機関との連携

○教育機関が連携した防災訓練について

(答弁) 予算の編成については、市長の予算提出権に基づき、財政状況や社会状況を踏まえた

**自由民主党  
鈴鹿市議団** **野間 芳実 議員**

**教育環境の整備について**

(質問) 教育委員会としての施設整備の計画はあるか。また、小中学校空調設備整備事業では、平成29年2月末には6校180教室、平成30年2月末には34校720教室へ空調設備を設置するとのことであるが、今後の進め方は。

おける施設の年次的改修などのための計画に基づき実施している。適正な教育環境の確保などを総合的に判断し、優先順位を整理した上で、教育施設の整備を図っていく。

小中学校空調設備整備事業については、業務スケジュールは予定どおり進捗しており、環境省からの公募を待って補助申請を行う。補助申請が採択されれば、プロポーザル方式において選定した事業者と契約を締結し、2年間で市内全ての教室、約900教室へ空調設備を設置する予定である。

その他の質問 ○シティセールスについて

(答弁) 教育施設の整備事業については、第5次総合計画の実施計画のもと、教育委員会内に